

平成20年
9月30日

病害虫発生予報 10月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

| | |
|---------------------|---|
| 果樹共通(カキ・リンゴ): カメムシ類 | 1 |
| 抑制トマト: 灰色かび病 | 1 |
| 抑制キュウリ: 褐斑病 | 2 |
| イチゴ: うどんこ病 | 2 |

【その他の病害虫】 3

ダイズ, サツマイモ, ブドウ, 抑制キュウリ, 抑制ピーマン, イチゴ,
秋冬ハクサイ, 冬レタス, 秋冬ネギ, 共通害虫

・ 病害虫ミニ情報

| | |
|---------------------------|---|
| 果樹(ナシ・ブドウ・カキ)病害虫の秋季防除について | 5 |
|---------------------------|---|

・ 今月の気象予報 7

・ テレホンサービス 7

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は、平成20年9月10日現在のものです。

農薬登録速報については、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報

【注意すべき病害虫】

果樹共通（カキ・リンゴ）

1. カメムシ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| - | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

9月下旬現在、カキにおける調査では被害果を認めているが、平年並の発生である。

予察灯（かすみがうら市）へのカメムシ類の誘殺数は、平年並である。

9月中旬現在、ヒノキ林におけるカメムシ類の発生量はやや多い。

[防除上注意すべき事項]

圃場内をよく観察し、カメムシ類が飛来した場合は、収穫前日数に注意して防除を行う。

薬剤散布は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

抑制トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 平年並 | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

9月下旬現在、平年よりやや多い発生である。

気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想され、特に発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、送風等によりハウス内の湿度を低く保つ。

発生の少ないうちに、防除を徹底する。

発生した場合は、発病部位を取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤の利用も考慮する。

薬剤散布は、薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同系統薬剤の連続散布は行わない。

抑制キュウリ

1. 褐斑病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|---------|------|
| 平年並 | やや多い~多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

9月下旬現在，平年よりやや多いから多い発生である。

気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年並と予想され，特に発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

収穫終期は，発生が増加する傾向にあるため注意する。

罹病部は新たな伝染源となるため，病斑の多い葉は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

ハウス内が多湿になると発生しやすいため，適切な換気に努める。

薬剤散布は，薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

(平成20年度農業総合センター主要成果参照)

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|---------|------|
| 平年並 | やや多い~多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

9月下旬現在，平年よりやや多いから多い発生である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は高いと予想され，やや発病に適した条件である。

[防除上注意すべき事項]

ビニール被覆後は発生が増加するので，ビニール被覆前後の防除を徹底する。

発病程度の高い被害葉は徹底して取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

発生の少ないうちに防除を徹底する。

薬剤は，葉裏や葉柄までよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

【その他の病害虫】

| 作物 | 病害虫名 | 発生予想 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|--------|-----------------|--------------------|--|
| ダイズ | 紫斑病 | 発生量：やや多い | 適期収穫に努め，収穫後は適切な乾燥・調製作業を行う。 |
| サツマイモ | ナカジロシタバ | 発生量：やや多い (県北地域) | 9月下旬現在 県北地域では平年よりやや多い発生である。 |
| ブドウ | べと病，さび病，褐斑病，晚腐病 | - | 翌年の伝染源となるので，収穫後には落葉，巻づるを集めて適正に処理する。 |
| 抑制キュウリ | タバココナジラミ | 発生量：多い | 9月下旬現在，平年より多い発生である。 |
| | ハモグリバエ類 | 発生量：多い | 9月下旬現在，平年より多い発生である。 |
| | ハダニ類 | 発生量：やや多い | 9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| | アザミウマ類 | 発生量：平年並～やや多い | 9月下旬現在，平年並からやや多い発生である。 |
| 抑制ピーマン | 斑点病 | 発生量：やや多い | 9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| | タバココナジラミ | 発生量：やや多い | 9月下旬現在，幼虫の平均寄生葉率は過去4年中2番目に高い。 |
| イチゴ | じゃのめ病 | 発生量：多い | 9月下旬現在，平年より多い発生である。 |
| | 輪斑病 | 発生量：やや多い | 9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| 秋冬ハクサイ | 軟腐病 | 発生量：平年並 | 9月下旬現在，平年並の発生である。 風雨が続くと発生が助長されるので，台風の後には防除を徹底する。 |
| | 鱗翅目幼虫 | 発生量：やや多い | 9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |

| 作物 | 病害虫名 | 発生予想 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|------|---------|-----------------|---|
| 冬レタス | 菌核病 | 発生量：平年並 | 9月下旬現在，平年並の発生である。葉の基部を観察し，発生を認めた場合は初期防除を徹底する。 |
| | 腐敗病 | 発生量：平年並 | 9月下旬現在，平年並の発生である。結球開始期に降雨が続くと発生しやすいので，初期防除を徹底する。 |
| 秋冬ネギ | べと病 | 発生量：やや多い ～多い | 9月下旬現在，平年よりやや多いから多い発生である。 |
| | 黒斑病 | 発生量：やや多い | 9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| 共通害虫 | ハスモンヨトウ | 発生量：平年並 | 9月下旬現在，イチゴ，抑制キュウリではやや多い発生であるが，その他の作物では少ない発生である。フェロモントラップへの誘殺数は平年並である。 |
| | オオタバコガ | 発生量：平年並 | 9月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は平年並である。 |

・病害虫ミニ情報

果樹（ナシ・ブドウ・カキ）病害虫の秋季防除について

果樹（ナシ・ブドウ・カキ）主要病害虫の秋季防除についてお知らせします。ここ数年はナシ黒星病やブドウ晩腐病等の発生が多く、カイガラムシ類等も増加傾向にあります。翌年の発生を抑えるために、越冬する病害虫に対する秋季防除はとても重要です。以下の対策を実施し、病害虫の発生しにくい環境を整えて来年に備えましょう。

【ナシ】

1. 黒星病

黒星病は、秋季に葉裏にうすい黒色の病斑（秋型病斑）を生じます。10～11月の降雨時には、りん片への感染が盛んになり、翌年の伝染源となります。また、秋型病斑を生じた落葉には、翌年の3月中旬頃から子のう胞子が形成され、5月下旬頃まで降雨により飛散して伝染源となります。秋季の対策として下記の2つが重要です。

落葉処理

- ・ 来年の伝染源を減らすために、収穫後は落葉を集め、土中深く埋めるなど、適切に処分しましょう。この作業は労力がかかりますが、高い防除効果が期待できます。
- ・ より簡易な方法として、ロータリー耕等を行い、落葉を土中にすき込むことも有効です。

薬剤防除

- ・ 収穫直後及び10月にオキシラン水和剤等殺菌剤の散布を必ず行いましょう。
- ・ 薬剤散布量は、10a当たり300リットルを目安に十分な量を丁寧に散布し、かけむらのないよう努めましょう。
- ・ 徒長枝に薬液が十分かかるようにすることが極めて重要です。
- ・ 黒星病は降雨によって伝染するため、秋季に雨が長く続く場合や多発園では、落葉前の11月上旬にもさらに防除を行ってください。

2. うどんこ病

病原菌が被害落葉中で越冬するので、翌年の伝染源を減らすためには、黒星病の場合と同様に落葉処理が有効です。

3. ハダニ類、カイガラムシ類

枝幹の粗皮のすき間等で越冬するため、9月（遅くとも10月上旬まで）に主枝などに誘引バンド（紙製の米袋や布等）を設置し、冬季（12月～2月）に取り外して、誘引バンドの下に潜り込んだ越冬虫等を処分したり、冬季に粗皮削りを行うことが有効です。

多発生した圃場では粗皮削りをした後、12月または3月の発芽前にマシン油乳剤を散布します。マシン油乳剤は、厳寒期の散布は避けて下さい。なお、マシン油乳剤と石灰硫黄合剤の近接散布は薬害を生じる恐れがあるため、3月の発芽前にマシン油乳剤を散布した場合、石灰硫黄合剤は使用しないでください。

4. ナシヒメシンクイ

幼虫が枝幹の粗皮のすき間等で越冬するため、ハダニ類、カイガラムシ類と同様に、主枝などに誘引バンドを設置し、冬季に取り外して処分すると、越冬幼虫の密度低下に有効です。

【ブドウ】

1. べと病、さび病、褐斑病、晩腐病

病原菌は、被害落葉あるいは巻きづるなどで越冬します。伝染源を翌年に残さないため、落葉や巻きづるは園外に持ち出し、土中深く埋めるなど、適切に処分しましょう。

2. ハダニ類, カイガラムシ類, チャノキイロアザミウマ

冬季の粗皮削りは, 越冬害虫の密度低下に有効です。また, ハダニ類, カイガラムシ類が多発生した圃場では, 3月の発芽前に石灰硫黄合剤を散布します。

【カキ】

1. 落葉病類

病原菌は被害落葉中で越冬するので, 落葉は園外に持ち出し, 土中深く埋めるなど, 適切に処分しましょう。

カイガラムシ類, ハマキムシ類, カキノヘタムシガ

主幹部を中心に誘引バンドを設置したり, 冬季に粗皮削りを行うと, 越冬害虫の密度低下に有効です。カイガラムシ類が多発生した圃場では, ナシの場合と同様に粗皮削りをした後にマシン油乳剤を散布します。

ナシ・ブドウ・カキの病害虫に対する秋季防除(一部冬・春季防除を含む)のポイントを下表にまとめました。また, 主要な果樹においては, 化学農薬だけに頼らない総合的な防除方法を紹介した「環境にやさしい病害虫防除技術の手引き」があります。秋～冬季に行う作業も多いので, 併せてご利用下さい。

表 ナシ, ブドウ, カキの主要な病害虫と秋季防除(一部冬・春季防除を含む)

| 作物 | 対象病害虫 | 主な越冬場所 | 秋季防除(一部春季防除を含む) |
|-----|-------------------------------|----------------------|---|
| ナシ | 黒星病 | 被害落葉 芽りん片 | 落葉処理 殺菌剤散布 |
| | うどんこ病 | 被害落葉 | 落葉処理 |
| | ハダニ類 カイガラムシ類 | 粗皮間隙 樹皮上 誘引縄の中 | 誘引バンド設置 粗皮削り 誘引縄の除去 マシン油乳剤の散布 |
| | ナシヒメシンクイ | 粗皮間隙 | 誘引バンド設置 |
| ブドウ | べと病, さび病 | 被害落葉 | 落葉処理 |
| | 褐斑病 | 結果母枝, 粗皮間隙 被害落葉 | 落葉処理 罹病結果母枝の除去 |
| | 晩腐病 | 結果母枝, 巻きづる | 罹病結果母枝や巻きづるの除去 |
| | ハダニ類 カイガラムシ類 | 粗皮間隙 誘引縄の中 | 粗皮削り 石灰硫黄合剤の散布 |
| | チャノキイロアザミウマ | 粗皮間隙 園内外の寄主植物落葉下 | 粗皮削り 地表面の耕起, 除草 |
| カキ | 落葉病類 | 被害落葉 | 落葉処理 |
| | カイガラムシ類 ハマキムシ類 カキノヘタムシガ | 粗皮間隙 樹皮上 | 誘引バンド設置 粗皮削り マシン油乳剤の散布 (カイガラムシ類のみ) |

本資料に記載の農薬は平成20年9月10日現在, 登録されているものです。

農薬を使用する際は, 農薬ラベルに記載の使用方法, 注意事項等を確認のうえ使用してください。また, 周辺作物等へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意してください。

薬剤使用回数のカウントは収穫後から開始されるため, 秋季防除での薬剤散布は, 次作の使用回数に数えます。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 9月27日から10月26日)

気象庁 (9月26日 発表)

< 向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

| 要素 | 予報対象地域 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|--------|---------|-----|--------|
| 気温 | 関東甲信全域 | 20 | 30 | 50 |
| 降水量 | 関東甲信全域 | 30 | 40 | 30 |
| 日照時間 | 関東甲信全域 | 30 | 40 | 30 |

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。予報期間の前半は, 気温の変動が大きい見込みです。

< 1 週目の予報 > 9月27日(土曜日)から10月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 70%

< 2 週目の予報 > 10月4日(土曜日)から10月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 10月11日(土曜日)から10月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに 40%

・ テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために, 病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号 : 029 (226) 5321

10 月上旬 野菜類の病害虫の防除対策等について

10 月下旬 果樹の秋季防除について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。